

平成 24 年度第 3 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会 議事録

日 時：平成 25 年 3 月 21 日（木）午後 1 時 30 分ー 午後 3 時 30 分

場 所：京都大学宇治キャンパス 宇治おうばくプラザ 1 階セミナー室 4

出席者：渡部・寶・岡崎・梅田・長田・中野・武藤・久保田・平石・飯高・
釜井・横松・野上・小林・岩波・鈴木（進）

オブザーバー：（文部科学省）鈴木（宏）・小野、（事務局）織田・織田（真澄）
（敬称略）

配付資料

- 1 平成 24 年度第 2 回京都大学防災研究所自然災害研究協議会議事録（案）
- 2 京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿・出席者名簿
- 3 地区部会報告
資料 3-1 北海道地区、3-2 東北地区、3-3 関東地区、
3-4 中部地区、3-5 関西地区、3-6 西部地区
- 4 突発災害調査について
- 5 自然災害データベースについて
- 6 人材データベースについて
- 7 平成 24 年度の決算について
- 8 平成 25 年度の予定について
- 9 京都大学防災研究所自然災害研究協議会委員名簿（任期入り）
- 10 大規模研究計画について

・議長挨拶 自然災害研究協議会議長 寶 馨

・前回議事録の確認（資料 1）および出席者（代理）の確認（資料 2）

議 事：

1. 平成 24 年自然災害研究協議会活動報告について

（1）地区部会報告（資料 3）

各地区から活発な活動報告があった。地区の運営経費が少なかったのはなぜか？防災研内部の配算が遅れご迷惑をかけた。25 年度から、4 月当初に予定額を聞いて、9 月までに確定した金額を出して地区部会の滑動を支障なく支援する。

（2）突発災害調査について（資料 4）

北九州豪雨災害については、熊本大学中心のメンバーであったので文科省として採択ができなかった。熊本大学からも、もっと京都大学が中心となって活動するよう要請があった。25 年度は突発災害の初動体制を改める。

（3）SAIGAI データベース担当報告（資料 5）

西部支部から入力があった。アクセス数が 11 万件を超えた理由は調査中。

(4) 人材データベース担当報告 (資料6)

人材データベースがほぼ完成したので、修正等を地区部会にお願いする。

2. 平成24年度の決算について (資料7)

突発災害が1/2を占めており、ほぼ健全な使用を行えた。各支部への配算には、支障をきたさないように努力する。

3. 平成25年度の予定について (資料8)

9月11日に自然災害シンポジウムを開催する。場所については25年度第1回協議会(4月下旬)で決定。

4. 京都大学防災研究所共同研究(重点推進型共同研究)について

2か年で申請しており、24年度と変更はない。

5. 自然災害研究協議会の規程の改正について

東北大学災害科学国際研究所から1号委員を出していただくことに了承を得た。

6. 平成25年度自然災害研究協議会委員の交代について (資料9)

継続委員を確認し、議長の退任あいさつを行った。

7. 大規模研究計画について (資料10)

IRDRを中心とした国際連携のキーセクションとして自然災害研究協議会の活躍を期待している。3号委員に国際担当を入れてはどうか>4月の協議会で検討

8. その他

地区部会のシンポジウムの配布資料が回覧された。会議後、文科省より、突発災害調査で特別研究促進費を得たテーマ(竜巻)については、一般参加者向けの成果報告会の開催を要請され、担当に伝えることを了承した。

配付冊子等:

DPRI Newsletter No64~No67

以上